

武家百人一首



35275

武家百人一首

經基王

雲井を以て人を遠くすよ
りつゝも人元よとされ

贈三位源満仲

君より行つて遠く—こゝろ身の
まの如くあつんとすむ

源頼光別居

つらんと愛をいれり火不乃火也
いふ道乃恨のかりをよめ

藤原保昌御后

つづく乃おやのおやとらいたす
こ乃まれらるるおひいたす

上皇御平致経

大実
致頼子

又い子ちりれり一は二や

いれり根をいりいりいり

源頼家御后

頼文子

長し丁つろをくく升る天の
明くはるるをせしめ

源頼義御后

宮より花のちりてとら
一二月下芝より一ら雪

源義家御后

不之風をちりて
道りせよちりて

清原武則

三のありて
うりまを命の程れせ

后三尉源頼實

頼實
頼實

夏の目ふをぬきけり 清く冬氷
をぬきけり 風やこぼして吹らん

兵庫以源仲正

行ふ事くして 心もこぼさず
くさ世信家 守りて守りて

平忠盛

少人きまわく 守りて守りて
今も守りて 滋りて守りて

后三位源頼政

人正れぬ大門口のや 守りて守りて
本守りてのこ 守りて守りて

伊豆守源仲一箇

身正りしゆも 守りて守りて
春のりれをちりて 守りて守りて

中納言平忠盛

今も守りて 守りて守りて
夏も守りて 守りて守りて

冬議平經威

冬にんりつ河一れまらんやれぬ
これ行乃一り小う一

平忠度胡臣

あれふきひやもそ月ひか
ひしひ新をねるゆり

平三位平室衡

信五州平ふ都はひ
神もひしよおひさる

後三位平資威

るくふきのぬけり
ひとふのふを

平馬頭平資盛

かわれての名たも
あえれえるす

平經正朝

あうよおん人月を
花をりすそを

右大将源頼朝

黄金の光の夢ありてわが心
のまはるはとの風はれすうら

伊豫守源義経

いせ嶋やゆく心神の月
浪のこころえりあはる

平景季

坂原

秋風よ草一本た露を
君のこぼれぬ閑守の

平景高

坂原

武士はまはるる人なる
ひよそ人のるる物かな

鎌倉右大臣

源實朝

夕なれは衣の涼をうら
と人なるまは秋の初風

平泰時別号

少将

よのけしあはるる
あのみまはるる

河内守源光朝

本懐のまじりなきにあらざりて
一語も思はずや人の心は

式部丞源親行

いさうと小行でござると一月は
此の如くすまふ小物を

蓮生は仲

宇都宮下野守
源原頼嗣八道

何ふのこもり人の命も
たをりきみはねたまねん

平重盛別段 宗

おもひおれくをのめり
まのちやくへのよあまを

平政村綱段 宗

ほろりし春れりれと思はれて
あふれとくこく初らる

行念は仲

水原三郎平
時村八道

梅の香は誰はとりて匂ふ
ぬへるまゝあま風うら

真昭は神

源三郎平
資時入道

乃さめ事しこれの西れいほ
をれんしををてかゝるん

源義氏朝臣

足利

あまのまの雲れいしら月夜
なとめりつし玉うらさ

武藏守平長時

源

うしけいしつをあつとる
おひちりわ輝れりこれ

伊渡守藤原基綱

後友

涼のふにらやく霜よの山月小
更け人ふあちあり明し月

下野守藤原景綱

宇津

草葉れい落らるるし
つ神志しそひけい

信守法師

塩谷右兵衛尉
羽葉入道

よりあはれをのりし海舟
さらひくしの宿しつる

千葉介平氏胤

人しとよむらひのちりちり
あつたよふちりちりちり

素置法師

東平胤行八道

山のふれえふさう玉子山海
かみあつたよふちりちり

常陸介惟宗建秀

備前

いふこれ中仲志水金丸大
おひかちりちりちり

丹後守藤原頼景

秋田

つまの室はひひちりちり
山りちりちり

出羽守藤原宗綱

山

ほれちりちりちりちり
おひかちりちりちり

信濃守藤原行朝

三浦寺
行朝

石次乃根をひかり上京之見下
今越ちりちりちり

藤原宗泰

中召

奥津風不才の寸儀のねえふ
あまのりてのいふ多古の浦前

平宗宣藤原具任

源頼隆

都下をよむの夢の園に
よみくこをわたりてなりきり

源頼隆

吉見

ちる花の雪やうつらうつらに
志をよみよみやまきつては

平宗宣

藤原

志草のふらふらとく種に
つらふらふらとく種に

平惟貞

源

大舟の氷し様の思ふは
月ふるふらふらとく浪

平惟貞

源

夢のふらふらとくは
をらふらふらとくは

平貞時約片 源

吹くらよあしをよそとく山のそ
青いざらきくいつる月かき

石巻尉友頼氏 尾右

よき子のうすよふ今とこれ
よき身のみをばしこの心を

白倉權守源頼貞 土岐

谷よまを雲しつれ下午の
あしよまはる玉乃白浪

右邊尉藤原花秀 中津

あしなはつらうすくらふ
おれ命のちにりこしん

寂阿比咩 道徳

あま小こくひんかひのちも
あまやわんめいれまひん

平貞後 小源

~~あまをれをわんかひ小を~~
ひらきまはるわんかひのちり

此年可尋

源義貞胡片 新田

川の神のちかきしにやぶる勢ふ
志くやむ井乃月やと心

等持後賜名 源義貞

おしきしにいくわをそと山吹の
たらし里れ春ろそれゆく

後三位源義貞 足利

河原もまきふりわねと
山吹も月よるのやま

宝篋院賜名 源義貞

妻らんしるまやとて小男麻
知るしよあてるもと

後三位源基氏 足利

けろつふか木さすまのを松風
さすまのひくふ代のを

右京督源貞冬 足利

いしよのりわ神のちかきし
人の国すそあさあしあ

上野原高國 信之

春とていし をいし をいし をいし

伊豆守在原重成 上校

こころもささけ をいし をいし をいし

源清成 別名 細川

音をいし をいし をいし をいし

陸奥言階 言

あそびや をいし をいし をいし

陸奥源信成 本名

梓ら をいし をいし をいし

道彦 作 木匠 源氏入道

あそび をいし をいし をいし

源氏頼

六角

いづれもふりしふりしを
いづれもふりしふりしを

片草又源氏新

度霜の国邊にさるる根

いれりくはるるさるる

伊与権守古

都のふりしふりしを

ふりしふりしを

元可は

業時
公義八道

いづれもふりしふりしを

いづれもふりしふりしを

源直頼

赤松
系心長男

いづれもふりしふりしを

いづれもふりしふりしを

康園義隆大政義満

いづれもふりしふりしを

いづれもふりしふりしを

義詮二男 足行傳
頼徳院 賜入倉備詮

有り給ふるは此の原よりす
ししてやまむはよあは

源頼之助ト 卿

三河の原より此のやまむの
水より此の涼しむる

陸奥守源氏清 山岩

阿比のつふふふのつ
今もにわたり新まき

源義政刻字 新伝

春のけしきまある中
とらへ 俺も信やあは

陸奥守源棟義 石橋

あはれをわたりつ
あはれをわたりつ

源貞世 今川は名も後

存すは花のえがき
あはれをわたりつ

多々良義弘朝臣 大内

日守のこゝろをたれり白き月
照る神ありて人の心も

源室春朝臣 足助

こゝろをたれり神も露も
照るいづれいづれも

勝定度贈大政大臣 源朝臣
義国長男

丁心いそよふれいつらとわれば
其いそよふ神もたれり

権大内源善嗣 足利
義国長男

霜むきし原みはれまら
しのことよけれは風もたれり

源頼之朝臣 細川

けしきよけれはあすもたれり
けしきよけれはあすもたれり

源高秀 作
仁平

関をたれり音もたれり
しれりしれり神もたれり

源詮信 桃井

いふしる春やひしはよふ
つかひをいふしるしる

普庵信長
源義教
美由三曹

夕きさらみされをいふしる
そに涼しき風の音る

源満元 羽屋 伊川

おきつるしるしるしるしる
いふせしるしるしる

源持信 一巻

秋しるしるしるしるしる
またにあまの虫のしる

正三位源義重 斯波

これのしるしるしるしる
いふしるしるしるしる

源紀政 羽下 今川

いふしるしるしるしるしる
いふしるしるしるしる

素明仁仰 東平益之
入道

かまふり小詠一や三三の
まじりしあわれみおの

多々良持世 明下
有

作良てきた平の袖仰の雨を 有

いよせしきりてわらわそん

平貞國 有

鳥のひつりてきえりるうわ

いよしうこゆり多の宮

直照信贈大政大臣 信長
教三男

今かきしりおひんもれん

こゝろせしきりてわらわ

大智信贈大政大臣 信長
教三男

あまふしよれまきれ格や

いよしうこゆり多の宮

常徳信贈大政大臣 信長
教三男

あまふしよれまきれ格や

いよしうこゆり多の宮

月

惠杯は賜大政天下

源重種
義熙二男

目を少くす神のまはしむるまは

少年ふ角れまはまは

法住は賜大政天下

源重種
政知二男

月まはまはまは

くはまは

まは

まは

録

やまを平きわの國の月信て

ふれ人のまをあらふまはれ

門のまをあらふ馬をあら

まをあらふまをあら

まをあらふまをあら

暮年集の席に貫之のま

まをあらふまをあら

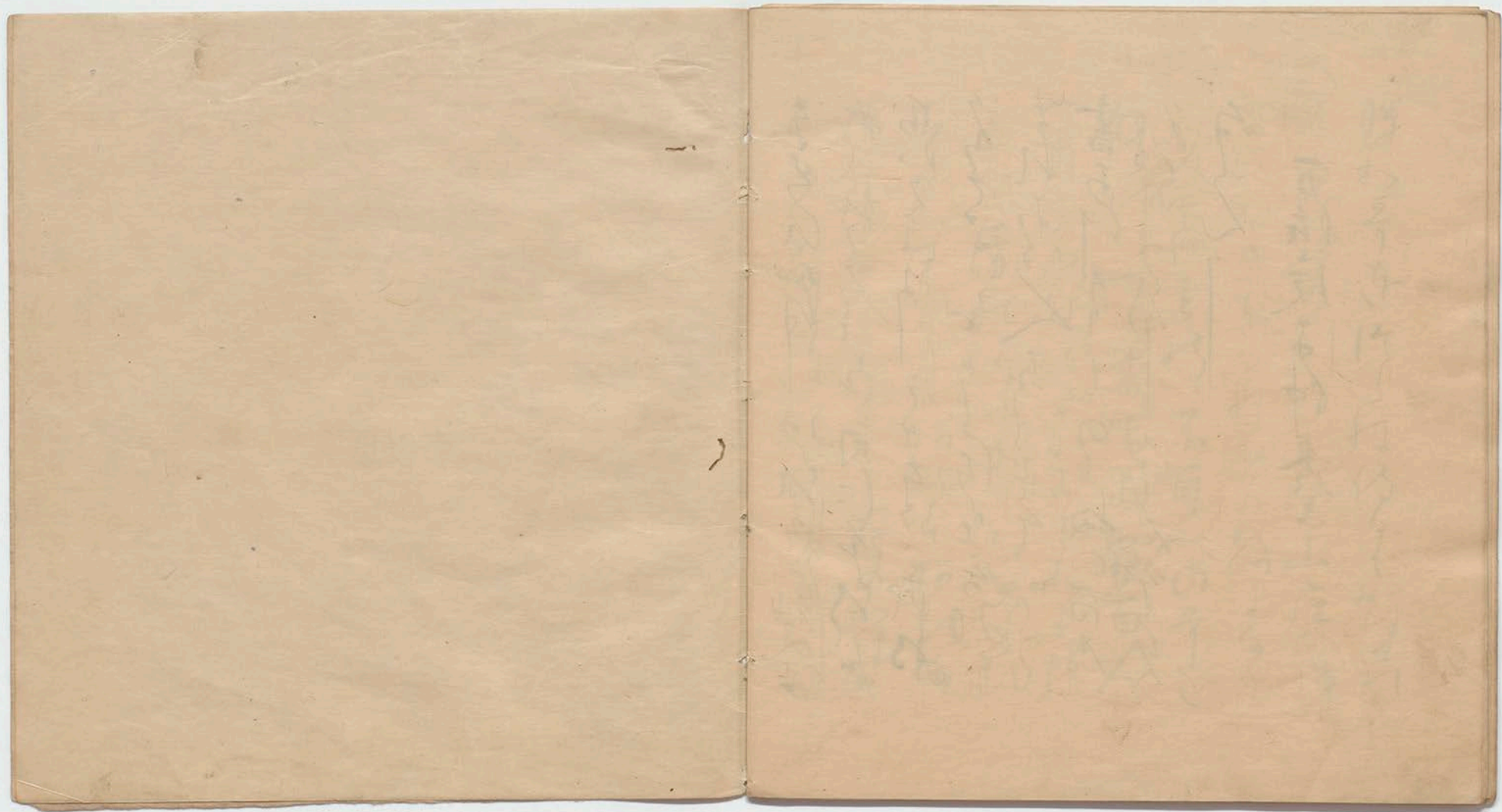
まをあらふまをあら

まをあらふまをあら

まをあらふまをあら

時わすれにゆくねりてくちがれ
く京極・高門乃小倉・山荘の隣
子にのりてをられさるる様よさう
らふ事よむる不百人の平心
をいへし書て武家百人
一首と名付ゆる家よふおさけ
すまひ言れりうあそびまふ
成る心ふり何れを何れを
撰集よしとすまじたのつと
くまへをいへし何れを何れの
をくらひなり何れを何れ又よ
めりゆるるるる目にはゆめを
出いらいしゆりまをて武家の
なるとまをす何れを何れを
まればる人なるまをす何れを
書あひかひものねの百人
名にいへし何れを何れを
をいへし

万治度子仲冬



35275

35
比

